科目ナンバリング	U-LAS04 10020 OJ47　U-LAS04 10020 OJ46　U-LAS04 10020 OJ45 U-LAS04 10020 OJ17

授業科目名 <英訳>	統合型複合科目（人社群p2）：「当たり前」を問い直すコミュニケーション科学　HC04 Integrated Liberal Arts and Science with Small Group Seminars (Humanities and Social Sciences p2) :Communication Science for Questioning Unnoticed Norms HC04	担当者所属 職名・氏名	国際高等教育院 准教授　横森　大輔 医学研究科　教授　片岡　仁美 人間・環境学研究科 教授　柿原　武史 国際高等教育院 教授　塚原　信行 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授　高田　明 医学研究科　准教授　岩隈　美穂 国際高等教育院 准教授　金丸　敏幸 国際高等教育院 准教授　和泉　絵美 学生総合支援機構 准教授　古川　裕之 情報学研究科 助教　井上　昂治

群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	教育・心理・社会(基礎)	使用言語	日本語

旧群	A群	単位数	4単位	週コマ数	2コマ	授業形態	講義＋演習（対面授業科目）

開講年度・開講期	2026・前期	曜時限	火3・木5	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

友人や家族との何気ないおしゃべり、お店や公共施設での買い物や手続き、SNSでのメッセージ交換。私たちの毎日は、無数のコミュニケーションの積み重ねによって成り立っています。「もっとうまく話せたら」「どうして伝わらないんだろう」――そんな悩みや疑問を抱いたことが、誰しも一度はあるはずです。コミュニケーションは、あまりに身近で「当たり前」の存在であるがために、それが学術研究の対象になるということは想像しにくいかもしれません。しかし、コミュニケーションは取るに足らない些末な事象では決してなく、人間社会の根幹を成すインフラとして、文系・理系の区分を越えて幅広い専門分野からの研究が長く積み重ねられている、重要な研究主題なのです。
この統合型複合科目は、そんな日常の「当たり前」を科学的に問い直すための知的探究です。「講義」（全14回）と複数の「少人数演習」（全14回）の組み合わせから構成されます。

木曜5限に実施される「講義」では、受講生が一堂に会して、各分野の専門家による授業を受けます。「講義」という名前ですが、授業内では教員からの一方向的なレクチャーだけでなくグループディスカッションや実習的な活動も行います。また、各講義には別の教員がコメントする時間を設け、講義内容を多角的な視点から深めていきます。

「少人数演習」は、それぞれ異なる曜日時限に実施され、ディスカッション・文献講読・データ分析実習など、各教員が設定した授業活動に参加します。少人数演習の内容については、下記の「授業計画と内容」をご覧ください。

○統合型複合科目分類　【文・理】
　主たる課題について文系分野の要素が強く、副たる課題については理系分野の要素が強いと考えられるもの

[到達目標]

本講義の履修を通じて、受講生は以下のことができるようになります。
①コミュニケーションへの多角的な学術的視野の獲得
■コミュニケーションに関する複数の専門分野（言語学、心理学、情報学、医学、社会学など）の主要な理論や知見を理解し、説明できる。

統合型複合科目（人社群p2）：「当たり前」を問い直すコミュニケーション科学　HC04(2)へ続く↓↓↓

■ひとつのコミュニケーション事象に対して、特定の視点だけでなく、複数の学問的立場から複眼的に捉え、議論できる。
②コミュニケーションに関する分析スキルの習得と実践
■実際のコミュニケーションデータ（会話の録音・録画、テキストデータ、自己観察記録など）を収集し、適切な学術的手法を用いて分析できる。
■「当たり前」とされる日常のやりとりや規範を、科学的な根拠に基づいて批判的に問い直すことができる。
③自己の実践と社会課題への応用
■自身の日常的なコミュニケーションを客観的に観察・分析し、その特徴や課題を言語化できる。
■授業で得た洞察を活かし、他者との関わり合いや社会的なコミュニケーション課題に対して、より深い理解と実践的な見通しを持つことができる。

[授業計画と内容]

（この授業では、講義と少人数演習を併せて学びます。講義のみ、少人数演習のみの出席では授業の到達目標に達しません）

◆講義　木曜5限　教育院棟講義室31（※第2-3回のみ医学部構内の「基礎医学記念講堂」にて実施です。詳細は第1回授業にてお伝えします。）
第1回(4/9)　イントロダクション：コミュニケーションの「当たり前」とは？
第2回(4/16)［コミュニケーション学］コミュニケーションとは何か（岩隈＋コメント横森）
第3回(4/23)［コミュニケーション学］（続）コミュニケーションとは何か：ヘルスコミュニケーションを題材に（岩隈＋コメント片岡）
第4回(4/30)［情報学］会話ロボットERICAと出会う：AIから考える人間の対話（井上＋コメント金丸）
第5回(5/7)［情報学］AIから考えるターン交替（井上＋コメント横森）
第6回(5/14)［情報学］AIから考える傾聴（井上＋コメント古川）
第7回(5/21)［情報学］AIから考える笑いと感情（井上＋コメント高田）
第8回(5/28)［コーパス言語学］「英語ペラペラ」を問い直す（金丸&和泉＋コメント塚原）
第9回(6/4)［会話分析］「日常会話」を問い直す（横森＋コメント柿原）
第10回(6/11)［人類学］「一人前になること」を問い直す（高田＋コメント井上）
第11回(6/25)［臨床心理学］コミュニケーションと大学生の自己理解（古川＋コメント和泉）
第12回(7/2)［医学教育学］医療とケアのコミュニケーション（片岡＋コメント高田）
第13回(7/9)［社会言語学］コミュニケーションする権利と政策（塚原&柿原＋コメント和泉）
第14回(7/16)　総合討論
第15回(7/30)　フィードバック授業

◆少人数演習
【D班：権利としてのコミュニケーション：情報保障・言語権・言語政策の調査と分析（担当：塚原信行・柿原武史）火曜3限　4共25】
　「誰でも自由にコミュニケーションできる」――それは本当にすべての人の「当たり前」でしょうか？現実の社会には、言語の違いやモードの違いによって、教育や行政サービスへのアクセスが制限されたり、発言の機会が不均等になったりする構造が存在します。本演習では、これまで「情報保障」「言語権」「言語政策」として語られてきた問題を、「コミュニケーションする権利」の視点から整理します。なぜ特定の言語使用者が不利益を被るのか、その背景にはどのような法や政策の仕組み（ポリティクス）があるのか。本演習では、こうした問いを出発点として、言葉をめぐる社会的な権力構造を冷静に分析し、多様な背景を持つ人々が互いを尊重し共に生きるための条件を考えます。毎回の授業では、前半にテーマについてのレクチャーを実施し、後半はレクチャー内

統合型複合科目（人社群p2）：「当たり前」を問い直すコミュニケーション科学 HC04(3)へ続く↓↓↓

容に基づくグループディスカッションおよびディスカッション内容の共有を行います。
（授業回とテーマ）
・第1回：オリエンテーション
・第2回：「ふつう」を相対化する：障害の社会モデルと言語
・第3回：識字率99%の神話：日本の「均質性」を解体する
・第4回：「言語という障害」：知的障害とコミュニケーションの排除
・第5回：文字とからだの多様性：筆跡へのまなざしと身体的マイノリティ
・第6回：日本の識字運動：レトリックと社会的背景
・第7回：読書権と公共図書館：独力での読み書きを超えて
・第8回：情報保障の視点：感覚モダリティと情報の構造化
・第9回：日本語のユニバーサルデザイン：漢字のバリアと「やさしい日本語」
・第10回：メディアの活用と学習環境のUD
・第11回：言語能力と社会生活（1）
・第12回：言語能力と社会生活（2）
・第13回：言語政策（1）―スペイン・カタルーニャ自治州の事例
・第14回：言語政策（2）―スペイン・ガリシア自治州の事例
・第15回：まとめ

[履修要件]

特になし。特別な予備知識は必要とせず，文系・理系を問わず全学部生向けに授業を行う。

[成績評価の方法・観点]

・講義への取り組み（リアクションペーパー等）：50%
・少人数演習への取り組み（発表、実習、ディスカッション、小レポート等）：50%
※講義および少人数演習の成績評価の詳細は，それぞれの初回授業で説明する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業資料の要点を予習・復習する。それ以外の課題がある場合は、授業時に指示する。

[その他（オフィスアワー等）]

成績証明書等では、表示文字数の制約上、英文科目名「Integrated Liberal Arts and Science with Small Group Seminars」が「ISS」と略記されます。

[主要授業科目（学部・学科名）]